



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月31日

上場会社名 日本食品化工株式会社 上場取引所 東
コード番号 2892 URL <https://www.nisshoku.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒川 健
問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課長 (氏名) 中村 圭吾 TEL 0545-52-3181
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	48,018	—	1,418	—	1,959	—	1,383	—
2024年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 1,672百万円 (—%) 2024年3月期第3四半期 ー百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	281.39	—
2024年3月期第3四半期	—	—

(注) 2025年3月期より連結決算を開始したため、2024年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載して
おりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	47,671	28,819	60.5
2024年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 28,819百万円 2024年3月期 ー百万円

(注) 2025年3月期より連結決算を開始したため、2024年3月期の数値は記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	100.00	—	100.00	200.00
2025年3月期	—	40.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,500	—	1,300	—	1,700	—	1,300	—	264.31

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2025年3月期より連結決算を開始したため、対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	6,400,000株	2024年3月期	6,400,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	1,481,646株	2024年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	4,918,353株	2024年3月期3Q	一株

(注) 2025年3月期より連結決算を開始したため、期末自己株式数の2024年3月期及び期中平均株式数（四半期累計）の2024年3月期3Qについては記載しておりません。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページの「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、最低賃金が引き上げられたこと等による堅調な所得増加の影響を受けて個人消費を取り巻く環境の改善がみられた一方で、物価高への懸念や慢性的な人手不足等の影響により緩やかな回復に留まりました。また、長期化するウクライナ情勢や中東の地政学リスク等により先行きは極めて不透明な状況となりました。

原料とうもろこしのシカゴ相場は、期初435セント/ブッシェル台で始まり、南米の高温乾燥予報等から5月中旬には472セント/ブッシェル台迄値を上げましたが、米国新穀とうもろこしの生育が順調に推移し、米国四半期在庫報告及び新穀の作付面積報告が上方修正され、豊作観測が強まったこと等から8月下旬には362セント/ブッシェル台迄値を下げました。しかしながら、9月に入り米国の好調な輸出需要や生育シーズン終盤の乾燥した天候による減産観測等から上昇に転じ、他穀物の相場上昇や12月の米国期末在庫の下方修正から値を上げ第3四半期末時点では458セント/ブッシェル台となりました。

WTI原油相場は、期初83ドル/バレル台で始まり、9月に中国の景気後退による需要減少懸念や産油国の供給過剰感等から65ドル/バレル台迄値を下げましたが、12月に中国の景気刺激策への期待による需要増加見込みや米国原油在庫が市場予想より大幅に減少したこと等から値を上げ、第3四半期末時点では71ドル/バレル台となりました。

米国から日本までの穀物海上運賃は、期初55ドル/トン台で始まり、インドの石炭輸入増やウクライナの穀物輸出が前年比増加したこと等から、5月初旬には58ドル/トン台迄値を上げましたが、その後、インドネシアの石炭輸出や南米の穀物輸出減少等が継続し荷動き鈍化から値を下げ、第3四半期末時点では41ドル/トン台となりました。

為替相場は、期初151円/ドル台で始まり、日米の金融政策の違いから7月上旬には161円/ドル台迄円安が進行しましたが、9月に米経済指標が市場予想を下回り、FRBによる大幅利下げ観測から一時的に140円/ドル台迄円高が進行しました。しかしながら、その後市場予想を上回る米経済指標や日米金利差の拡大から円安が進行し第3四半期末時点では158円/ドル台となりました。

販売面では、前年に比べインバウンドも含めた人流回復により外食産業向け需要は増加しました。大型連休も好天に恵まれたため、飲料向けを中心に夏序盤の糖化製品の販売は増加傾向となりました。しかしながら、6月以降高温が続いたものの、夏から秋にかけて天候不順であったことと、全般を通して消費者の節約志向が根強かったことが影響し、製品全体では前年同四半期に比べ販売数量は減少しました。

澱粉製品の販売では、新聞、雑誌のデジタル化進捗による紙需要の減少により、紙の生産量も同様に減少傾向が続いており、製紙向け澱粉の販売数量は前年同四半期に比べ大幅に減少しました。一方、食品用澱粉の販売は外食市場の客数増加により需要が回復したことを受け販売数量は増加しました。糖化製品の販売は飲料向け中心に販売数量が前年同四半期に比べ大幅に減少したため、その他食品市場向け販売減少も合わせ、糖化製品全体では販売数量、売上ともに大きく減少しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、480億1千万円、営業利益は14億1千万円、経常利益は19億5千万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億8千万円となりました。

次に、各部門の販売概況は以下のとおりです。

(澱粉部門)

澱粉部門は、製紙向け澱粉需要が全体的に減少しましたが、外食産業の活性化により食品向け澱粉需要は回復傾向となり、澱粉製品全体の売上高は106億1千万円となりました。

(糖化製品部門)

糖化製品部門は、インバウンドの増加含め、人流回復により業務用販売を中心に需要が回復傾向でありましたが、台風や豪雨といった天候不順も影響し販売数量は減少、売上高は307億8千万円となりました。

(ファインケミカル部門)

ファインケミカル部門は、コロナ禍の収束により国内の一部市場向け製品販売が回復傾向でありましたが、売上構成の影響により売上高は17億2千万円となりました。

(副産物部門)

副産物部門は、穀物相場が低位安定したことで前年同四半期に比べ販売価格が下落したことにより売上高は48億8千万円となりました。

なお、2025年3月期より連結決算を開始したため、対前期増減率は記載しておりません。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は476億7千万円となりました。主な内訳としては、売掛金が141億5千万円、有形固定資産が130億7千万円等です。負債合計については188億5千万円となりました。主な内訳としては、短期借入金が86億1千万円、退職給付に係る負債が43億4千万円等です。また、純資産合計は288億1千万円となり、自己資本比率は60.5%となりました。

なお、2025年3月期より連結決算を開始したため、対前期増減率は記載しておりません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年4月30日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	254
売掛金	14,155
電子記録債権	1,745
商品及び製品	4,525
仕掛品	3,436
原材料及び貯蔵品	3,314
その他	663
貸倒引当金	△5
流動資産合計	28,090
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	4,008
機械装置及び運搬具(純額)	6,926
土地	1,262
リース資産(純額)	180
建設仮勘定	485
その他(純額)	209
有形固定資産合計	13,072
無形固定資産	
投資その他の資産	
投資有価証券	5,075
繰延税金資産	942
その他	523
貸倒引当金	△312
投資その他の資産合計	6,229
固定資産合計	19,581
資産合計	47,671

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間
(2024年12月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	1,223
短期借入金	8,619
未払金	3,120
未払法人税等	0
賞与引当金	851
役員賞与引当金	23
その他	362
流動負債合計	14,201
固定負債	
退職給付に係る負債	4,349
資産除去債務	174
その他	127
固定負債合計	4,651
負債合計	18,852
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,600
資本剰余金	328
利益剰余金	27,567
自己株式	△2,148
株主資本合計	27,346
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	53
繰延ヘッジ損益	197
為替換算調整勘定	1,229
退職給付に係る調整累計額	△6
その他の包括利益累計額合計	1,472
純資産合計	28,819
負債純資産合計	47,671

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	48,018
売上原価	39,979
売上総利益	8,038
販売費及び一般管理費	6,620
営業利益	1,418
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	12
持分法による投資利益	553
受取ロイヤリティー	104
その他	46
営業外収益合計	716
営業外費用	
支払利息	28
固定資産除却損	70
為替差損	72
その他	4
営業外費用合計	174
経常利益	1,959
税金等調整前四半期純利益	1,959
法人税、住民税及び事業税	322
法人税等調整額	253
法人税等合計	575
四半期純利益	1,383
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,383

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,383
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△12
繰延ヘッジ損益	△194
退職給付に係る調整額	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	495
その他の包括利益合計	288
四半期包括利益	1,672
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,672

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、とうもろこし等を原料とした澱粉、糖化品、ファインケミカル、副産物の製造及び販売を事業内容としており、とうもろこし等加工事業の単一セグメントであります。そのため、セグメント情報については記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間
（自 2024年4月1日
至 2024年12月31日）

減価償却費

2,008百万円